

## 令和4年度第2回岩手県中山間地域等直接支払制度推進委員会議事録

### 1 日時

令和4年11月10日（木） 10:00～11:30

### 2 場所

岩手水産会館 5階 中会議室

### 3 出席委員（敬称略）

委員 大平 恭子  
委員 工藤 昌代  
委員 佐藤 愛理  
委員 四戸 聡  
委員 竹本 太郎  
委員長 吉野 英岐

### 4 議事

#### 【1 開会】

- ・事務局が開会を宣言。

#### 【2 挨拶】

- ・岩手県農林水産部農業振興課総括課長より、開会の挨拶。
- ・事務局が、委員9名のうち、過半数を超える6名の出席があることから、委員会が成立することを報告。
- ・以降、吉野委員長が議長となり進行。

#### 【3 協議】

##### (1) 令和4年度「いわて中山間賞」の選考について

- ・事務局が、資料1（参考）に基づき、いわて中山間賞授与要領について説明。

##### ① 農事組合法人一方井地区営農組合（岩手町）

- ・事務局が、資料1-1に基づき、農事組合法人一方井地区営農組合について説明。

《質疑等の内容》

〔佐藤委員〕 田んぼアートやデントコーン迷路は、子どもをはじめ町外の人も興味を

持つ取組だと思うが、町外に情報が十分周知されていないと感じる。SNS やホームページの活用など、どのように発信を行っているか。

[事務局] 田んぼアート等については、町内回覧のほか、町外に対しても町のホームページやラジオ、テレビ、新聞に取り上げてもらっている。また、今年度は道の駅 20 周年記念イベントの周遊コースに組み入れるなど、周知・誘客を図っている。しかし、より広い周知に向けて、マスコミを活用するなど、さらに積極的な PR 方法について支援していきたい。

[四戸委員] 候補調書には、「非農業者を含む地域農業者が一体となった取組」という記載があるが、現地調査の際は小学校以外の地域住民との連携については印象が薄かったように思う。今回に限らず、審査や表彰で成果を記載するにあたり、地域の代表者の思いだけでは客観性が弱いと感じることから、地域住民の取組に対する思いが分かる意識調査やアンケート結果があるとよいのではないか。

[事務局] 小学校との連携の他にも、花壇の植栽など、地域の方も積極的に取組に参加されているということであるが、アンケート調査などが難しいとしても、地域住民の声を聞き取るなど、今後の調書作成の際は工夫していきたい。

[大平委員] 今回に限らず、将来の農村のあり方を考えるうえで「女性の参画レベル」がポイントとなってくると思う。一方井の現地調査では、女性部の活動内容がはっきり見えなかったが、例えば、現地調査の意見交換の場に女性部の方も同席していただくことで組織としてレベルアップにつながるのではないか。農村の女性も次の世代に移っていく中で、女性の参画のあり方にもより焦点をあてて推薦していただくことで、より農村が光り輝くものになると思う。

[事務局] ごもったもな意見だと思う。補足として、現在、法人の女性部に属する 9 名が中心となって加工等を行っている他、構成員の配偶者など実際には 15 名程度が積極的に活動に参加していると聞いている。りんどうの収穫や栽培、草取りなど、細やかな作業は女性が中心となって活動を支えているようだ。

現地調査の際は、そういった活動が見えるよう女性部の方にも話を伺う機会を設けるようにしたい。

[竹本委員] 取組は問題なく、総合的に良い取組だと思う。特に、地域一体となった取組が 20 年以上継続されていること自体、素晴らしい。また、単なるルーティンではなく、近年は田んぼアートやデントコーン迷路など、外部から人を呼び込む新た

な取組が出てくることも評価すべき点であると思う。大平委員からアドバイスがあったように、女性をしっかりと巻き込むなど、取組の新陳代謝を図り、多様性を発揮しながら、これからも取組が永く続いていくものになることを願っている。今回の受賞がそのきっかけの一つになることを期待している。

〔吉野委員長〕候補調書の様式上、作成者が明記されないようになっているが、授与要領を見ると受賞団体の推薦者は広域振興局の農政担当部長又は農林振興センター所長となっている。実際は市町村も取組や候補調書の作成に関わっていると思うので、取組のPRなどについては、今回いただいた御意見を市町村担当者とも共有して、改善を図っていただきたい。

また、推薦があった段階で、県庁担当者が事前に集落へ行き、実際に授与要領の選考基準を満たすかどうか確認しているはずである。候補調書からはっきり読み取れなくても、確認した内容を示していただければ委員の皆様も納得しやすいのではないかと。

今回の件においては、取組内容というよりは推薦や選考の方法について多くアドバイスをいただいた。今後の参考としてほしい。

〔吉野委員長〕農事組合法人一方井地区営農組合について、いわて中山間賞を授与することを可としてよろしいか。

- ・ 農事組合法人一方井地区営農組合について、令和4年度「いわて中山間賞」の授与が妥当と了承された。

## ②泉沢集落協定推進組合

- ・ 事務局が、資料1-2に基づき、泉沢集落協定推進組合について説明

### 《質疑等の内容》

〔工藤委員〕感想になるが、当地域は雪深く、独居高齢者が多い地域ということで、「互いに助け合っていく」という繋がりができていることが印象的であった。現地調査後も個人的に家族とこの地域を訪れ、そば祭りを訪れたが、そば打ちなど、女性の活躍も様々感じる事ができた。

〔四戸委員〕現地調査には参加できなかったため確認となるが、①除雪活動はいつから実施しているのか。②最近（2年前から）始まった活動ということだが、授与対

象には、活動期間の縛りなどはないか。③高齢化が進み、人口が減少している地域とのことだが、これらの取組の持続可能性についてはどのように考えているか。

[事務局] ①西和賀町では、多様なボランティアが参画した除雪体制が構築されており、令和2年度から集落機能強化加算を活用して取組を充実させるなど、より組織的な取組になってきているのだろうと思う。

②受賞対象となる取組の継続期間については特に制限を設けていない。西和賀町全体で高齢化が課題となる中、令和2年から始まったこの取組がモデルとなって町内の他協定へ波及していることが評価され、受賞候補に挙がっているところ。

③活動の持続可能性についてだが、高齢の農業者が多い中で、非農業者も巻き込んで総会を実施し、共同取組活動に参加してもらえよう丁寧に説明を行っている。役場や農協の退職者なども、将来的には巻き込みながら活動を継続していきたいとのこと。

国でも農村型 RMO 形成支援事業を予算化するなど、組織体系の構築に力を入れている。農地だけでなく生活を守る当集落協定のような取組をより普及させ、持続的なものになるよう支援していきたい。

[竹本委員] 地域のニーズに合っていたから、他地域にも一気に波及したものと推測する。今回の受賞を受けて、町外にも取組が広く浸透していくことを期待している。

[佐藤委員] 東日本大震災の後、沿岸部では高齢者が一か所に集まり、交流する機会や場所を設けていたそうだが、この地域ではそのような場はあるか。数か所、6～7人でも集まれる場所があれば、支援スタッフの訪問以外でも外部とコミュニケーションをとる機会となり、より前向きな気持ちになれるのではないか。

[事務局] そのような場があることは確認していない。現在は主に支援スタッフが訪問する形式となっている。また、支援スタッフ7名のうち、女性は3名おり、状況を記録したり、丁寧に話を伺ったりしているとのこと。御提案いただいたコミュニティサロンのような場所づくりも地域に提案しつつ、取組の発展を促していきたい。

[吉野委員長] これまでの中山間地域等直接支払交付金は、農業生産振興に寄与する活動に対するものであったが、集落機能強化加算は社会福祉サービスの活動に対しても交付金を活用できるようになっている。泉沢集落協定推進組合では、実際にこの仕組みをうまく活用しており、令和4年度には町内13集落において同加算を活

用した取組が行われていることを評価し、受賞候補となっているところ。

〔吉野委員長〕 泉沢集落協定推進組合について、いわて中山間賞を授与することを可としてよろしいか。

- ・ 泉沢集落協定推進組合について、令和4年度「いわて中山間賞」の授与が妥当と了承された。

(2) 棚田地域振興活動加算に係る目標の妥当性について

- ・ 事務局が、資料2（参考1）に基づき、棚田地域振興活動加算について説明。
- ・ 事務局が、資料2-1に基づき、漆原集落協定の目標設定について説明。

《質疑等の内容》

〔大平委員〕 現地を見たときに、イメージしていた棚田よりも傾斜が緩かったように感じた。また、現地調査で話を伺った際、正直、産直の売上目標の積算が甘いように感じた。産直のようなサービス提供に当たっては、人の配置や確保、売上のどこの部分を伸ばすかなど、定量的な観点を入れて検討するべきであると思う。

〔吉野委員長〕 既に認定を受けている計画の目標であるので、この目標を実現させるためのコメントをいただきたい。

〔事務局〕 これらの目標は既に認定されているものであり、達成されなければ返還となる。目標達成に向けては、しっかりとした積み上げによる検討が重要であると感じている。現地調査後に振興局を通じて聞き取ったところ、現段階では資材高騰を背景とした販売単価アップのほか、年3回程度実施予定のイベントでの産直割引券配布等を行い、売上の拡大につなげることとしている。また、事務局としても、高齢者世帯へのお弁当の配達、構成員のご家族への農産物の宅配などを提案しているところ。

〔佐藤委員〕 近年、産直や道の駅は訪れる人の目線に立って、入りやすい内装や駐車場、きれいなトイレ、イベントの実施など、かなり工夫を凝らしている。より具体的に、お客様が集まり、買い物をしやすいような産直づくりについて検討する必要があるのではないか。

〔事務局〕 あぐり志和産直は、盛岡和賀線沿いに位置し、交通量が非常に多い。通過

する方に PR するよう看板を立てると聞いている。また、八戸藩の飛び地で 3,000 石の米どころという歴史的背景も PR しながら、集客に繋げたい考えである。

〔四戸委員〕 ①目標の具体的な最低ラインとなる基準はあるか。それとも自由に決められるものか。②審査にあたり、航空写真では棚田の状況がわかりづらいので、棚田の定義を図示するなど、イメージしやすいようにしていただきたい。

〔事務局〕 ①具体的な目標の基準や条件は定められておらず、地域の状況に合った目標を設定することとなっている。

②棚田であることが資料から見て取れるよう、写真や示し方を工夫する。

〔大平委員〕 棚田を核としてコースを整備し、誘客することになるかと思うが、期待する棚田の風景に見えないかもしれない。誰でも棚田だとわかるよう工夫が必要では。

〔事務局〕 棚田に加えて、歴史的な背景や魅力を PR することで興味を持ってもらうなど、誘客につなげられるよう支援していきたい。

〔吉野委員長〕 設定単価のアップという消費者負担の増を期待するだけではなく、全体の底上げを図るには、実際にコースをめぐっていただき、買い物もしていただくような、総合的な戦略が必要。単なる農業振興ではなく、棚田を核とした「地域振興」であるので、棚田に関連した地域や農村の歴史に興味持っていただき、ぜひこれらの目標が実現されるよう、皆さまにフォローしながら進めていただきたい。

・ 棚田地域振興活動加算に係る目標について妥当とすることについて了承された。

### 【3 閉会】

・ 事務局が閉会を宣言。